

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分が住みたいホーム、自分の家族を住まわせたいホーム」を理念とし、全ご利用者が安心して生活できる空間作りを心掛けている。全体会議や内部研修等によって、理念の共有に努めている。	理念は管理者、職員全員で理解し、共有しています。月1回の全体会議ではユニット毎に、実際のケアの中で理念をどう生かすか話し合っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	松が丘地区においてのお祭りに積極的に参加したり、ホーム主催の「みかん祭り」においてご利用者様と地域の方々が交流を持てるイベントを催した。また、日々近隣地域をお散歩する事によって、顔なじみの関係作りを図っている。	高齢化が進んでお祭りが実施できない松が丘地区へ積極的に働きかけ夏祭りを実現しています。また、施設の駐車場を開放して出店、バザーなど近隣住民も利用者も参加する「みかん祭り」も開催し地域との大きな繋がりができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や運営推進会議において、ホームとしてどう地域に貢献していきたいかお伝えし、会議中にいただいたご意見を参考にしながら、地域の方に向けて活かす内容を模索し実行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においてサービスの状況を報告し、またご相談させていただくことによって、サービスの向上に活かしている。特に、ご利用者様と地域住民の方が触れ合う事が出来る催しを多く持てるよう、会議を活用させて頂いている。	町会長、民生委員、家族代表、小学校長、地域包括など多様な職種の方の参加を得て年6回開催しています。会議では施設からの報告事項のほか利用者も参加できる地域の催しに関する提言が出されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所のご担当者様とは、日頃から細かいことについてもご相談・ご報告させていただいており、密にご連絡を取らせて頂いている。	市の所管課とは日頃の業務上の事項について指導、連絡などを密にしています。その他生保受給者も受入れており、その所管課とは生保関係の様々な問題で連絡をとっています。早朝に行方不明者が出た際には所管課に報告し解決しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの活用や身体拘束研修を社内にて行っている。拘束を実施したことはなく、玄関の施錠は安全上、20時以降に行い、日中は施錠しない事としている。	身体拘束をしないという意識は管理職、職員とも共有しています。マニュアルは事業所全体のものとして活用しており、年3回の研修では倫理、法令、認知症、看取り看護などと共に身体拘束もテーマとして挙げ研修しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、マニュアルの活用と社内研修を行い職員に周知徹底している。また、トイレ介助時に付き添った職員の名前を記録に残し、虐待が行われない様に管理・工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方は1名おられる。他のご利用者様でも必要と思われる方には、ご提案している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・改定時に重要事項説明書・契約書の説明会を実施し、ご利用者様・ご家族様との十分な話し合いの場を設けている。質疑等には丁寧に対応し、出来る限りご理解・ご納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様やご家族様からの苦情相談には、心情をお察しし、玄関に無記名式のご意見箱を設置している。家族会においては多くのご家族様にご参加いただき、貴重なご意見をいただき運営に反映させている。	家族からの意見や要望は電話が多いです。家族会は、年3回程度行い、40%の人が参加し、イベントの開催や小遣い銭の管理のあり方など貴重な意見が出され運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の際や個人面談、個人への普段からの会話等でヒアリングを行い、各職員からの意見・提案を聞き、運営に反映させている。	職員からは、全体会議の際や代表者と個別に面談をする年1回の個人面談の際に意見、要望を聞いています。職員からサービス残業に関する意見、要望などが出され、それを解消した実績があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者が頻繁に相談し、事業所の運営内容を確認している。また、各職員がやりがいを持つ事が出来るよう、各自の希望・能力に合った仕事を割り振るようになっている。また、個人面談において給与・労働時間等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じた評価制度を導入し、面談において一年を振り返り次年度の課題と一緒に策定している。また、内部研修・ユニット研修を実施し、外部研修においては提示して知らせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会が行っているイベント等に参加し、同業者との交流を深める機会を作っている。また、運営推進会議において他事業所の管理者をお招きし、同会議においてご意見をいただき、サービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の前にご利用者様と面会し、ADL面だけでなく生活面や精神面でのアセスメントを管理者と計画作成担当者が取っている。ご本人様が安心してホームでの新しい生活がスタート出来るよう、顔なじみの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	多くのご家族様が、施設に入所させる際に罪悪感を伴う自己嫌悪に陥ることがある。ご本人様を介護する輪の中に私達が新たに仲間として受け入れて頂くというイメージを持って頂くような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居いただく以前に、必ずご本人様とご家族様にご意見を頂き、他サービスの利用も考慮している。また、最適なサービスがGHなのかを見極め検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様一人一人が、どう暮らしたいのかを伺い、役割若しくは活躍できる場を見つけて頂けるよう支援している。掃除・洗濯・調理・買い物・針仕事など、スタッフと一緒に活躍していただくことによって、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や毎月のお便り等を用いて、現在の各ご利用者様の近況をご報告している。また、各イベントにも出来るだけご家族様にも参加して頂けるよう努め、共に支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所内での面会や、お電話、お手紙等を用いて、馴染みの方との交流を持続出来る様、支援させて頂いている。また、イベントにおいてご家族様だけでなく、ご友人・知人等にもお声を掛けさせて頂いている。	利用者は携帯電話で友人と自由に連絡しています。また、手紙を書いて交流するよう声掛けもしています。中学時代の仲良し4人組が訪ねてくる例もあります。クリスマス会には声掛けし、家族だけではなく友人、知人も出席していました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ご利用者様が孤立することが無いよう、またご利用者様同士が係わり合えるように支援させて頂いている。コミュニケーションを取る事が難しい方でもスタッフが間に入り、お互いに支え合えるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	諸事情により退去された方にも、必要な情報の提供や相談等を行っている。また、退去された方のご家族様にもホームの行事の開催をお知らせし、退去後のフォロー・ご相談等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の些細な仕草や言葉に出来ない思いを汲み取れるよう、各ご利用者様の発言や行動を24時間生活変化シートなどに記録し、各ご利用者様の意向を取り入れたケアプラン作りに努めている。	職員は、「生活変化シート」で各利用者の行動を24時間記録し把握しています。それを日々継続することで、意思を十分に表現できない利用者の真の意向を把握するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居される際に、ご家族様から情報を頂き、アセスメントの記録作りに努めている。生活歴や嗜好を把握し、これからの生活に支障が出ないように努め、ケアカンファレンスを実施し職員間で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化シートを使って、一日の過ごし方を把握できるように努めている。また、毎日のバイタルチェックを実施する際に、会話を通して心身の状態を把握し、申し送りやカンファレンスにおいて個々の有する力等の情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様の望む暮らしやご家族様のご意向を取り入れ、関係者の意見やアイデアを盛り込んだケアプランを作成している。また、現状に沿ったケアプラン作りに努める為、カンファレンス等において各ご利用者様の状態を把握している。	利用者を中心に、家族の意見も聞いた上でケアプランを作成しています。通常は、入居1か月で、継続する際は6か月を目途に全体会議でカンファレンスを実施し、関係者の意向、本人の現状に即した介護計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間生活変化シートや申し送りノート、業務日誌等を用いて、各ご利用者様の日々のご様子や気づき等を記録している。それらを用いて、カンファレンス会議を行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様からの要望があった場合だけに限らず、必要と判断された場合には、その時に必要なサービスを提供している。通院や買い物の付き添いなどにも対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣公園に毎日お散歩に行ったり、「みかん祭り」など近隣の方と共に楽しめる催しを企画したりしている。また、自治会が主催する「松が丘の夏祭り」においても、地域の方と接する空間作りに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で協力医療機関が往診に来て下さっている。ご本人様、若しくはご家族様からの要望により他医療機関への受診を希望された場合には、他院への通院支援を行っている。	協力医療機関(内科、歯科、皮膚科等)が隔週で往診しています。利用者や家族の要望により、他の医療機関への受診を希望する場合には通院支援も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との相談・報告・情報交換を行う為に、「申し送りファイル」を使用し活用している。また、適切な看護・介護を受けて頂けるよう、日頃から情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院される際には、介護サマリーを作成し情報を医療機関に提供している。また、管理者が入院先の医療機関において、入院時・退院時にご家族様と一緒に医師から説明を聞き、病院関係者との連携・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、必ず「看取りに関する指針」を説明し同意書を頂いている。看取りの介護を始める際には、医師との連携を取りながら、再度ご家族様のご意向をお聞きし、対応できる体制を整えている。	契約時に「看取りに関する指針」を説明し、同意書を得ています。重度化した場合や終末期には、医師と連携を取り、再度家族の意向を確認し、家族の意向に沿うようにしています。重度化や終末期を支え、対応出来るように研修をして体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にご協力を依頼し、年に一度「応急手当やAED使用方法、初期消火」等の研修を行っている。また、ホームにて年に2回避難訓練を行う事によって、事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震等の災害を想定した避難訓練を年に2回行っている。消火器の位置確認、各自の役割分担等を確認し、非常災害時に慌てる事のないよう備えている。	避難訓練は年2回、消防署立ち合いのもとで行っています。夜間想定訓練も利用者参加で行いましたが、地域住民の高齢化にともない参加はありません。	災害時には職員だけでは限界があり、地域住民の協力が必要です。運営推進会議等で、地域の高齢の方でも協力出来る事柄を話し合い、地域に働きかけることを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の有無に関わらず、個々の自尊心に配慮した対応を心掛けている。また、各ご利用者様の羞恥心に配慮した入浴・排泄介護等を行うように心掛け、出来るだけ同性介助も行っている。	利用者の気持ちを大切に考え、さりげなく声かけをしてトイレに誘導しているのが見られました。利用者に援助が必要な時は出来るだけ同性介助を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能な方については、ご本人様の思いや希望を最優先として支援する事に努めている。また、自己決定が難しい方については、いくつかの選択肢を提示し、出来るだけ自己決定が出来る様、支援させて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、ご利用者様がどのように過ごしたいかご希望をお伺いし、ご希望に添える様支援させて頂いている。また、ケアプラン作成時において、ご本人様の希望を第一に考え、プランの内容を考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・更衣時にスタッフが勝手に決めず、ご利用者様の希望を尊重し、出来るだけ洋服等を選んで頂けるよう支援させて頂いている。整髪・髭剃り等の支援は勿論の事、理美容サービスの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理が得意な方には食事作りを、後片付けが得意な方にはお皿洗いや食器拭きをお願いしている。また、嗜好を記録に残し、食事を楽しんで頂けるよう支援させて頂いている。	魚は専門店で発注していますが、利用者と一緒に毎日食材等の買い物に行っています。食事作りや後片付けは利用者と共に職員が行い、利用者の好みをメニューに活かし食事を楽しむ事が出来るように工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在、ご利用者様と一緒に食材等の買い物を毎日行い、栄養バランス等を配慮し、メニューの作成を行っている。また、24時間生活変化シートに食事量・水分量を記録し、十分な量を確保出来ない方には、必要な栄養補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で口腔内の清潔保持が出来る方に関しても、最後にチェックさせていただき、清潔の保持を支援させて頂いている。また、ご自分で行う事が出来ない方には、口腔介助・入れ歯洗浄等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間生活変化シートを使って日々の排泄チェックを行い、排泄パターンを把握できるようにしている。また、全体会議等において安易なおむつの使用を避ける話し合いを行い、トイレでの排泄の支援を心掛けている。	全体会議等で安易なおむつ使用を避ける話し合いを行い、職員は利用者の排泄パターンを把握してトイレで排泄出来るように支援しています。おむつやリハビリパンツから布パンツになった利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューの工夫や、水分摂取量への配慮に努めている。便秘気味の方には、運動・体操等にお誘いし、腸の機能の活性化に努めている。また、毎朝牛乳を摂取して頂くことによって便秘の予防も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ご利用者様のご要望に沿えるよう、入浴前のご希望をお聞きしている。また、入浴剤や季節の湯を提供し、入浴を楽しんで頂けるよう配慮している。	個々の利用者の希望に沿って朝8時や夜寝る前等、時間や入浴方法等に対応しています。また、入浴剤や季節の湯(ゆず湯等)で入浴を楽しめるように工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各ご利用者様によって休息に必要とする時間は違い、特に夜間帯のご様子を記録に残し、一日の過ごし方を見直している。安心して休んで頂けるよう、居室内の温度等にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の留意点に関しては、看護師と十分に情報交換を行う事によって対応している。また、内服薬に変更が生じた際には、申し送りノート等を使ってスタッフに周知し、症状の変化を見落とさない様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご利用者様が得意な事を探り、積極的に取り組むことが出来る様支援させて頂いている。また、出来るだけ毎日外出し気分転換して頂けるよう心掛け実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各ご利用者様からの要望があった際や、天気が良いなど外出日和の日には、戸外に出る支援をさせて頂いている。また、ご家族様にもご協力を依頼し、ご家族様との外出・外食も行っている。	利用者の要望があった際や、天気の良い日には散歩、買い物ツアー、バラ園、なし狩り等で戸外に出かけています。その時の様子が写真で確認できます。また、家族の協力のもと家族との外出、外食なども支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することは、ご利用者様の不安をとるのに役立つ事から、お金の支払いが出来る方、若しくはご要望があった方には、ご本人様に金銭をお渡しし、自由に使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話やお手紙のやり取りが出来るように支援させて頂いている。また、年賀状や暑中見舞い等で、ご家族様や知人との連絡が取れるよう支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯に合わせた照明や温度の調節を行っている。リビングの装飾では、季節感を取り入れ、居心地良く過ごす事が出来る空間作りに努めている。また、「自分の家」という生活感を感じて頂けるよう、居室内の装飾等にも配慮している。	共用空間は季節を感じられる物や家庭的な雰囲気が感じられる物で装飾されています。他の入居者の名前が覚えられるようにとの家族の要望で名前やイベントを楽しむ利用者の写真が飾られ、居心地良く過ごせるように工夫している事が窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置やベランダにベンチを置くなど、各ご利用者様が思い思いに過ごす事が出来る空間作りに努めている。気の合ったご利用者様同士が居室を自由に行き交うことが出来る様支援させて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具や、ご家族様のお写真を持ちこんで頂き、可能な限りご自宅での生活環境に近付けている。思い出の品や馴染みの品に触れて安心感を持って頂けるよう工夫している。	以前使っていた家具やベッドを持参し、利用者が居心地良く過ごせるように利用者や家族と相談して配置を決めています。また、家族の写真や思い出の品等を飾り本人好みの居室にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各ご利用者様の出来る事、難しい事を見極め、スタッフが手を出し過ぎないように努めている。また、各ご利用者様が自信を持って日々暮らす事が出来る様、自立支援を念頭に置いて支援させて頂いている。		